

2025 年度企画展展示記録

企画展 船旅への誘い

— 神戸港に刻まれた「飛鳥クルーズ」の軌跡 —

会期 2026年3月3日(火) ~ 5月10日(日)

神戸海洋博物館 2階企画展示室・マリタイムシアター



§1 「飛鳥」のあゆみ

1-1 「飛鳥」姉妹

1-2 「飛鳥クルーズ」の軌跡

§2 「飛鳥III」-新たな物語-

2-1 環境に優しい最新鋭のエコシップ

2-2 「飛鳥III」建造ヒストリー

2-3 「最幸」のおもてなし

§3 「飛鳥クルーズ」の源流

3-1 欧州航路回顧

3-2 模型にみる N・Y・K の客船・クルーズ船

§4 クルーズへの誘い

4-1 「飛鳥クルーズ」の軌跡（マリタイムシアター上映）

4-2 クルーズ情報コーナー

ごあいさつ

時間がゆったりと流れる船の旅

船旅には、目的地への移動ではなく船上での優雅な時間を楽しむことを主目的としたクルーズという類型があります。

我が国の「クルーズ元年」と呼ばれたのは、日本船籍のクルーズ船「おせあにつくぐれいす」（当時の船社は昭和海運）と「ふじ丸」（同大阪商船三井船舶）が相次いで就航した1989年のことでした。

日本郵船の初代「飛鳥」は、その翌々年1991年10月に日本船籍で当時最大のクルーズ船として竣工しました。

以降、クルーズ船「飛鳥」の名は、郵船クルーズのもとで「飛鳥Ⅱ」（2006年2月就航）、「飛鳥Ⅲ」（2025年7月就航）と引き継がれています。

2026年3月14日、「飛鳥」の名で我が国のクルーズをけん引してきた3隻の船体が神戸港に一堂に会することになりました。

当館では、この機会に「飛鳥クルーズ」をテーマに、至福のクルーズを支えるしくみや神戸港にちなんだ船旅の歴史のひとこまをご紹介します。

この展示を通じて、クルーズの魅力と寄港地としての神戸のまちの魅力に触れていただければ幸いです。

※この企画展では、初代「飛鳥」（現「AMADEA(アマデア)」)、「飛鳥Ⅱ」、「飛鳥Ⅲ」を総称して「飛鳥姉妹」と表記いたします。

1-1 「飛鳥」 姉妹

1-2 「飛鳥クルーズ」の軌跡

1991年10月28日、初代「飛鳥」が誕生し、「飛鳥クルーズ」の歴史は始まりました。

日本の黎明期、輝かしく花開いた“飛鳥時代”に由来を持つ「飛鳥」という名は、レジャーを目的とした本格的なクルーズ船がなかった、当時日本でのクルーズ文化の創造を目指し名づけられました。初代「飛鳥」は、2006年ドイツのクルーズ会社フェニックス・ライゼンへ移籍、現在は「AMADEA」という名で就航しています。

2006年には、続く「飛鳥Ⅱ」が就航。充実した設備と日本船ならではのおもてなしで、日本のクルーズ船として国内外に多くのファンを生み、「飛鳥」の名が広く知れ渡りました。

その船体は、1990年就航の「クリスタル・ハーモニー」を改装したものであり、広々とした空間で、ラグジュアリーなひとときを楽しむことができます。

そして2025年7月、30年以上にわたる「飛鳥」の歴史を受け継ぎ、次世代のクルーズを牽引する「飛鳥Ⅲ」が就航しました。

環境に配慮した最新技術の搭載や、美しい日本の工芸作品・多彩なアートの展示・販売など、設備やサービスも未来志向の展開で、「最幸のおもてなし」を提供しています。

§1

「飛鳥」のあゆみ



初代「飛鳥」船体模型

模型 | 当館



初代「飛鳥」

写真 | 郵船クルーズ(株)



初代「飛鳥」就航時の資料

資料・写真 | 個人



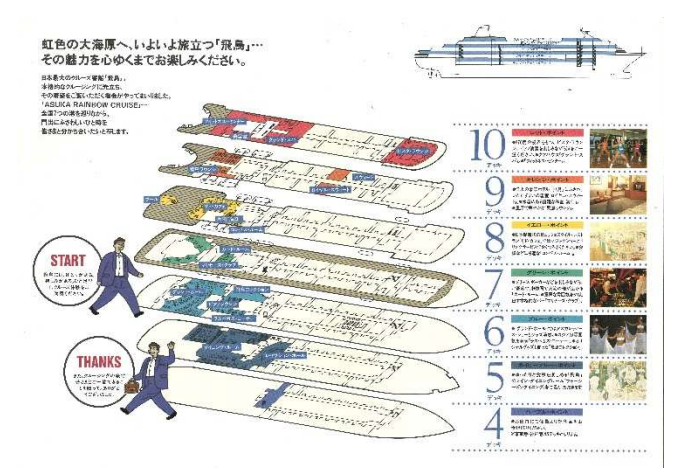
「AMADEA」(初代「飛鳥」)

写真 | フェニックス・ライゼン/マーキュリートラベル(株)



「ASUKA RAINBOW CRUISE」掲載の船内案内

資料 | 個人



「飛鳥マップ」掲載のデッキプラン

資料 | 個人



「飛鳥II」船体模型

模型 | 当館



「飛鳥II」

写真 | 郵船クルーズ(株)



「飛鳥II」クルーズ光景 リスボン

写真 | 郵船クルーズ(株)



「飛鳥II」クルーズ光景 カレッジフィヨルド

写真 | 郵船クルーズ(株)



「飛鳥II」関連資料

資料 | 郵船クルーズ(株)・当館

模型 | 郵船クルーズ(株)



「飛鳥III」クルーズ光景「飛鳥II」と並走

写真 | 郵船クルーズ(株) 撮影・中村庸夫氏



「飛鳥III」船体模型

模型 | 郵船クルーズ(株)



「飛鳥III」

写真 | 郵船クルーズ(株)



「飛鳥III」クルーズ光景 神戸

写真 | 郵船クルーズ(株) 撮影・中村武弘氏



「飛鳥III」クルーズ光景 函館

写真 | 郵船クルーズ(株)



「飛鳥III」就航時の記念品等

資料 | 郵船クルーズ(株)・個人



「飛鳥III」揮毫

資料 | 郵船クルーズ(株) 書・矢萩春恵氏

「飛鳥クルーズ」三姉妹の船体主要諸元

| | 「飛鳥」 | 「飛鳥Ⅱ」 | 「飛鳥Ⅲ」 |
|----------|--------------------------------|--|-----------------------------------|
| 就 航 | 1991年10月 | 2006年2月 | 2025年7月 |
| 船籍港 | 横 浜 | | |
| 全長×全幅(m) | 192.8×24.7 | 241×29.6 | 230×29.8 |
| 総トン数(GT) | 28,717 | 50,444 | 52,265 |
| 推進方式 | ディーゼルエンジン推進 | ディーゼル電気推進 | 三元燃料ディーゼル電気推進システム |
| 喫水(m) | 6.2 | 7.8 | 7.0 |
| 航海速力 | 最高21ノット | 最高21ノット | 最高20ノット |
| 乗客数 | 584名 | 872名 | 680名 |
| 乗組員数 | 約240名 | 約490名 | 約490名 |
| 客室数 | 292室(全室海側) | 436室(全室海側) | 351室(全室海側バルコニー付) |
| 造船所 | 三菱重工業長崎造船所 | 三菱重工業長崎造船所 | 独マイヤー・ヴェルフト造船所 |
| 備 考 | 2006年2月に独フェニックス・ライゼン社に譲渡。現アマデア | 1990年7月にクリスタル・ハーモニーとして就航。2006年譲受・改装・改名 | 企画展開催時点は乗客数740名、乗組員数約470名、客室数381室 |
| データ基準 | 1991年就航時 | 2026年1月 | 2026年5月 |

※GT: 総トン数 (Gross Ton)

2-1 環境に優しい最新鋭のエコシップ

2-2 「飛鳥Ⅲ」建造ストーリー

2-3 「最幸」のおもてなし

「飛鳥クルーズ」の3隻目となる「飛鳥Ⅲ」は、「お客様好みに広がる旅」をコンセプトに掲げています。「飛鳥クルーズ」が守り継ぐ和のおもてなしを主軸に、多彩なダイニングやエンターテインメント、ウェルネスなど、心身を満たす充実したプログラムを備えることで、より自由で豊かな体験を提供し、次世代クルーズの新たな価値創造を目指しています。

また、化石燃料としてはクリーンな燃料とされるLNG（液化天然ガス）の活用や、D.P.S（Dynamic Positioning System 船位保持制御システム）、POD推進器など、最新鋭のシステムを日本のクルーズ船として初めて搭載し、安全性の向上、そして環境への負荷低減に貢献しています。

§ 2

「飛鳥Ⅲ」

-新たな物語-

2-1 環境に優しい最新鋭のエコシップ



「飛鳥III」操舵室 写真 | 郵船クルーズ(株)



「飛鳥III」POD推進器 写真 | 郵船クルーズ(株)



「飛鳥III」横浜港岸壁でのLNG供給 写真 | 郵船クルーズ(株)

(動画資料)「飛鳥III」機関室 (11分43秒)

映像提供 | 郵船クルーズ(株)



4つの日本籍クルーズ客船初の装備

船位保持制御システム (D.P.S)

D.P.S (Dynamic Positioning System) は、錨を下ろすことなく風、潮、波などの外力を自動計算し、船首方位・船体位置を保持する制御システムで、日本籍クルーズ客船としては初めて「飛鳥III」に装備されました。これにより海底環境 (サンゴ礁・魚など) を損なうことなく入港・停泊することができます。

POD推進器

日本のクルーズ客船で初の装備となるPOD推進器は、プロペラの推力の方向を360度どの方向にも向けることができ、舵が不要となることや大きな推力により、省エネルギー、優れた操縦性、振動・騒音抑制効果などが期待できます。

岸壁からのLNG燃料の供給

2025年6月に母港横浜港で岸壁のタンクローリーから直接行われた「飛鳥III」へのLNG燃料の供給は、クルーズ客船としては国内初の事例となりました。

三元燃料ディーゼル電気推進システム

重油・軽油・LNG (液化天然ガス) の計3種の燃料を使用できるトリフューエルエンジンで発電した電気で水中下に配置したPOD (プロペラを直結した360度回転する電気モーター) 推進機を駆動し推進します。

トリフューエルエンジンは、化石燃料としては最もクリーンな燃料とされるLNGを利用することで、さらなる硫黄酸化物、窒素酸化物の排出削減に貢献し環境負荷を低減します。

陸上電源の利用

「飛鳥III」は、日本のクルーズ客船で初となる世界標準規格に合致したAMP電力受電装置を装備。陸上電源の供給が可能な港においては高効率な陸上電源からの電力供給がうけられるため、本船のエンジンを停止させることが可能となり、環境負荷が低減されます。

2-2 「飛鳥III」 建造ヒストリー

動画集「飛鳥III」 建造の記録 (出典: YouTube URL は企画展開催時点)

「飛鳥III」 キール・レイニング セレモニーの様子を動画でご紹介
(1分34秒)

<https://www.youtube.com/watch?v=9gZa5wdrDYg>



マイヤー・ヴェルフト | ドッキング解除/出航
MEYER WERFT | Ausdocken/Float Out ASUKA III
(1分21秒)

<https://www.youtube.com/watch?v=-8KueYK0W3I>



「飛鳥III」 誕生-MEYER WERFT での建造の軌跡-
(3分31秒)

<https://youtu.be/qpCu4CuKIIM>



「飛鳥III」 エムス川航行 (Conveyance)
(2分16秒)

<https://www.youtube.com/watch?v=W1MrSaaEhrs>



2025年7月11日 「飛鳥III」 命名式
(45秒)

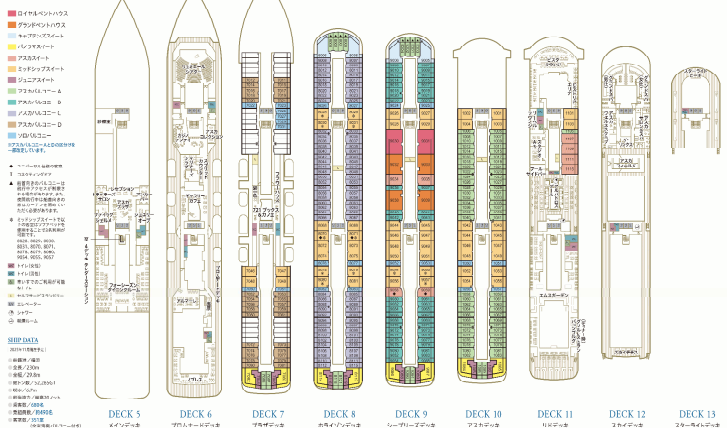
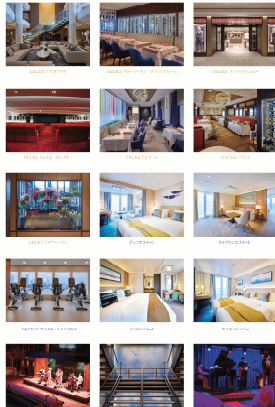
<https://www.youtube.com/watch?v=8QTSmnbiDRk>



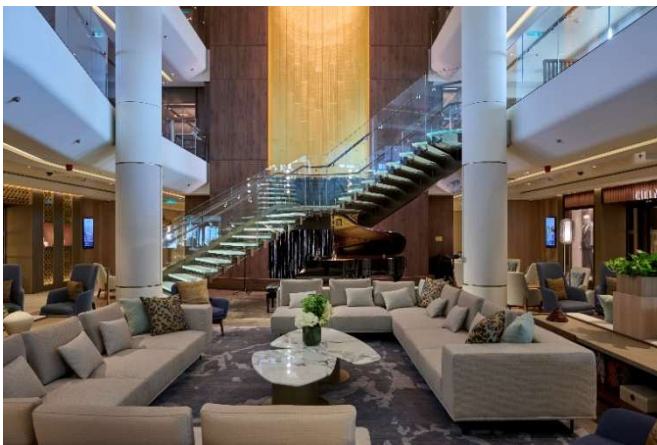
2-3 「最幸」のおもてなし

飛鳥Ⅲ 最幸のおもてなし

特長: 3泊からロングクルーズまでお客様の好みに広がる旅 (ASUKA CHARTER BOOK)
 全長: 230m / 全幅: 29.8m / 高さ: 46.6m / 13デッキ



※2026年3月時点のデッキプラン。同年5月改定予定





「飛鳥III」の船内は、客船、レストラン、ラウンジ、シアター、スパなど多様な空間で構成されており、乗客が長時間快適に、かつ非日常の喜びを堪能できるよう設計されています。

客室「アスカバルコニー」は、ラグジュアリーさと居住性を両立した設計で、国際的なクルーズ船のインテリアコンテスト「CSI awards 2024」のベストステートルーム賞を受賞しました。

また、至福の食体験を楽しめる6つのレストランや、大海原を眺めながらゆったり過ごす展望大浴場では、日本のクルーズ船ならではのおもてなしを感じることができます。

アートギャラリーのような「飛鳥III」。日本美術界の巨匠から次世代を担う作家、さらには公募作品まで、数多くのアート作品や工芸作品が船内を彩るなど、単なる移動手段としてだけでなく文化に触れる場としての役割を果たしています。

動画展示 映像提供 | 郵船クルーズ (株)

「飛鳥Ⅲ」 × マイクロドローン | 躍動感あふれる船内ツアー

(4分38秒)

<https://www.youtube.com/watch?v=GJJFVJTZNkA>



「飛鳥Ⅱ」 2025年世界一周クルーズ

(8分31秒)

<https://www.youtube.com/watch?v=wavEoHVoiKI>



「飛鳥クルーズ」 テーマ曲「ASUKA」 作曲：葉加瀬太郎氏

(「ASUKA music by Taro Hakase」)

<https://www.youtube.com/watch?v=huCI24Oy9Js>



※上記 URL は企画展開催時点

3-1 欧州航路回顧

3-2 模型にみる N・Y・K(日本郵船)の客船・クルーズ船

戦前の日本の外航海運は、神戸港や横浜港を拠点に発展し、太平洋航路や欧州航路は世界一周旅行とも結びついた国際的な交通網を形成していました。これらの取り組みは戦争により中断されましたが、N・Y・Kが築いた船旅文化は、戦後の「飛鳥クルーズ」へと受け継がれました。

1939年、N.Y.Kは太平洋航路向けの大型豪華客船「檀原丸」の建造に着手しましたが、戦局の悪化により計画は中断、船体は航空母艦「隼鷹」に転用され、“幻の客船”となりました。その後、この未完の夢は、およそ半世紀を経て初代「飛鳥」に受け継がれることとなりました。

§ 3

「飛鳥クルーズ」

の源流

3-1 欧州航路回顧



「檀原丸」船体復元模型（船尾側）

模型 | 当館



「檀原丸」船体復元模型（側面）

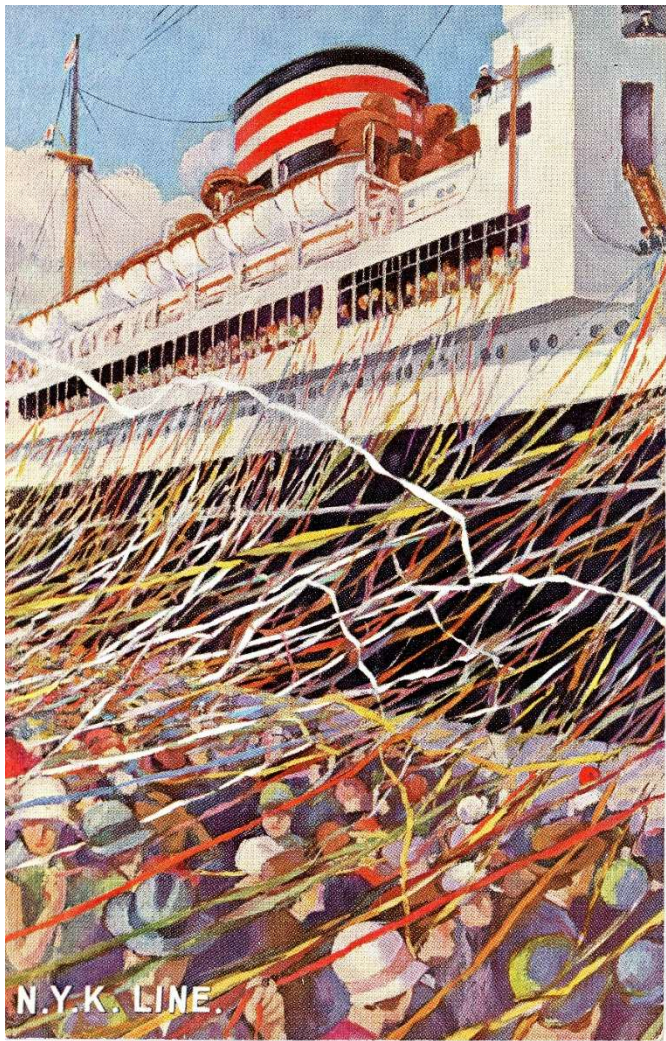
模型 | 当館

「飛鳥」のルーツ「檀原丸」

1939年 N.Y.K は、三菱重工業長崎造船所で「檀原丸」の建造に着工しました。同船は、総トン数2万7千トン余り、全長210メートル超の大型客船として太平洋航路に就航する計画でした。

残念ながら建造途中で船体は、海軍航空母艦に転用されて特設空母「隼鷹（じゅんよう）」として竣工し、当時我が国最大となるはずの豪華客船計画は、幻となりました。

初代「飛鳥」は、「檀原丸」がなしえなかった大型客船の夢を託して建造されました。船内の「飛鳥ラウンジ」は、戦前の豪華客船のサロンの再現をコンセプトとし、一角には「檀原丸」の絵が掲げられていました。



外国航路 出港見送りの光景

N.Y.K 発行絵葉書 | 個人

欧州航路回顧

戦前の神戸港は、横浜港と並ぶ外国航路の拠点でした。なかでも花形は、太平洋航路と欧州航路でした。

このうち米国に向かう太平洋航路は、大陸横断鉄道と外国船の大西洋航路と連携した世界一周ツアーの一部を構成していました。

一方、昭和初期には2週間ごとに神戸港を出港したロンドン行きの欧州航路は、とりわけ「セレブ」感あふれる航路となり出航日には、京都駅から当時の埠頭に特設された神戸港（こうべみなと）駅まで専用の連絡列車が運転されました。また1937年には4週ごとに東周りで世界を一周する欧州航路も開設されました。

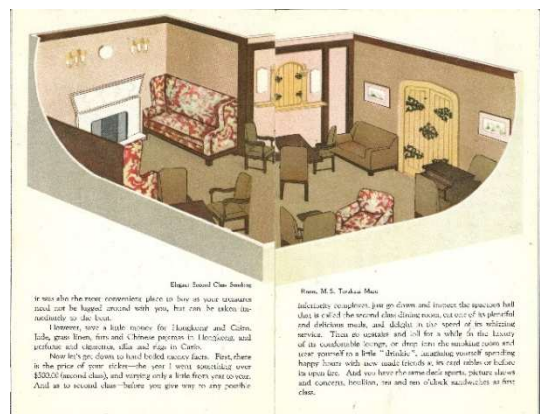
また欧州に到着した「照国丸」や「箱根丸」の船体を利用して、欧州の人々をターゲットとした地中海「クルーズ」も催行されました。

これらの外航航路は、戦況の悪化にともない次々と休止されましたが、N.Y.K が企画したこれら世界一周旅行や地中海ツアーは、まさに「飛鳥クルーズ」の源流と言えます。



「Afternoon Tea」

N.Y.K 発行絵葉書 | 個人



「照国丸」喫煙室（「AROUND THE WORLD IN SECOND CLASS CRUISE」より）

資料 | 個人



昭和戦前期の外航関係資料

資料 | 個人



「照国丸」「靖国丸」関係資料 (左5点)

「桑港線・欧州線御乗船案内」(右2点)

資料 | 個人



「照国丸」

N.Y.K 発行絵葉書 | 個人



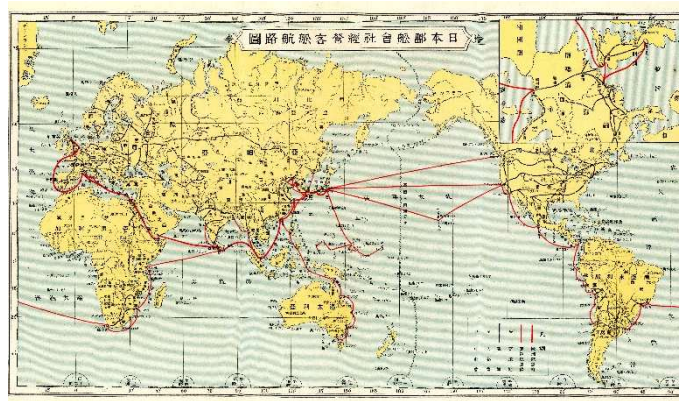
「照国丸」

N.Y.K 発行絵葉書 | 個人



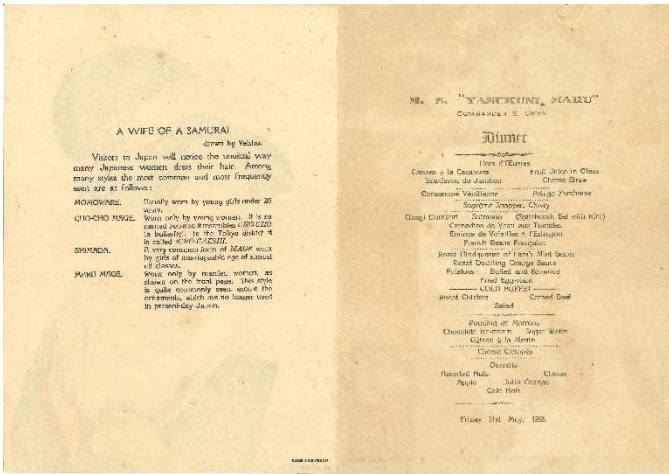
「日本郵船接続米国鐵道図」

資料 | 個人



「日本郵船客船航路圖」

資料 | 個人



「靖国丸」ディナーメニュー

資料 | 個人

欧州航路の船内で配布されたディナーメニュー表紙には、浮世絵や日本画が用いられています。

また、メニューには“Unagi Domburi (うなぎどんぶり)”の表記があり、船内で日本食がふるまわれていたことがわかります。

当時より、外航客船が日本文化発信の場としての役割を担っていたことがうかがえます。



絵葉書「欧州の巨船神戸築港突堤着船の賑い」

資料 | 個人

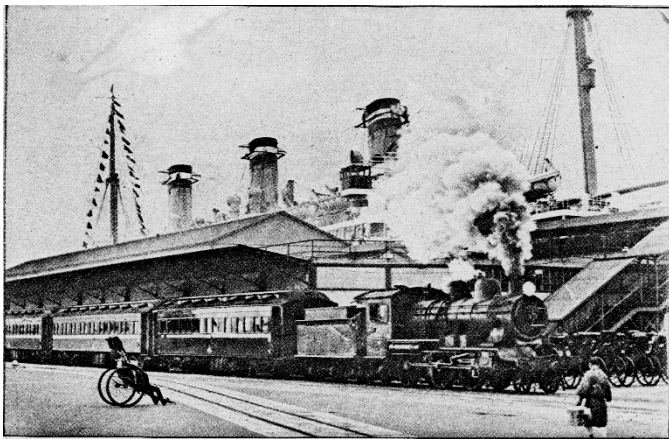
神戸 (支店) 神戸臨海埠通一丁目十番地
電話三ノ宮二六・三三・六六

○桑港線出帆時刻 桑港行午後三時(大洋丸正午)
○歐洲線出帆時刻 歐洲行午後三時(通例突堤四時)
○歐洲線客船の歐洲向出帆日京都神戸港間を運轉される臨港列車は直ぐ船側迄参りますが、同列車以外の方は三ノ宮驛下車の方が御便利であります。神戸驛だと船まで餘程遠くなります。当社支店へは電車自動車一臺五十錢。
○手荷物は、当社専屬日本旅行社三ノ宮驛出張所(電話三ノ宮二九七)又は符合區磯邊通四丁目同社本店(電話三ノ宮三三四)にお委せになれは御便利です。尙三ノ宮驛には直ぐ本船に積込みます。
○突堤には、日本旅行社の徽章をつけた手荷物運搬人が居ります。積込料金普通手荷物一箇十錢です。

○臨港列車發着表(歐洲行定期船神戸出帆當日)

| | | | |
|--------------|-------|------|---------|
| 料 | 金 | 料 | 金 |
| 京都驛より片途(三ノ宮) | 一圓一六錢 | 京都驛發 | 午後三時三十分 |
| 大阪驛より片途(三ノ宮) | 四九錢 | 大阪驛發 | 午後四時一〇分 |
| 等 | 四九錢 | 神戸港發 | 午後四時一〇分 |
| 等 | 四九錢 | 京都驛發 | 午後四時五十分 |
| 等 | 四九錢 | | |

○臨港列車は當社歐洲航路客船歐洲向神戸出帆の當日京都神戸港間を臨時運轉せらるるものであります。○臨港列車にお乗りの方は神戸港驛の切符をお求め下さい。尤も當社發行の神戸行船車振替乗車券御所持の方は京都驛で臨港列車に御乗換の上、神戸港驛までおいでになれます。
○京都驛で臨港列車に御乗換になる方は、發驛で手荷物御託送の場合荷札には必ず神戸港驛と御記入下さい。



「神戸港における船車連絡の光景」

(出典：大阪毎日新聞社「西日本現代風景」)

資料 | 個人

1907年、船車連絡を担う駅として「神戸港駅」

(現在の新港第四突堤の付け根あたり)が開業しました。客船の出入港に合わせ、京都-大阪-神戸港間で臨時列車が運行されたほか多くの人力車が待機し、観光地へと向かう渡航者のシームレスな移動に貢献しました。

「桑港線・欧州線 御乗船案内」(N.Y.K 発行)

資料 | 個人

3-2 模型にみる N・Y・K の客船・クルーズ船



船体模型「浅間丸」・「氷川丸」

模型 | 当館



船体模型「クリスタル・ハーモニー」・「飛鳥II」

模型 | 当館



複製画「浅間丸」(上)「氷川丸」(下)

資料 | 当館

客船からクルーズ船へ

明治年間から連綿と続いた N.Y.K の客船業務は、1960 年 10 月 17 日の「氷川丸」（横浜港内に保存。国重要文化財）の引退をもっていったん終了しました。

以来、約 30 年を経てクルーズ客船分野への進出が計画され、まず米国市場をターゲットにした「クリスタルクルーズ」の第一船として、1990 年に三菱重工業長崎造船所で当時我が国最大の客船（船籍はバハマ）となる「クリスタル・ハーモニー」が建造されました。その翌年に日本国内をターゲットとする「飛鳥」が建造され、「飛鳥クルーズ」の第一歩が踏み出されたのです。

なお「クリスタル・ハーモニー」は、2006 年に我が国のクルーズ市場向けに改装されて「飛鳥II」となりました。ちなみに現在でも全長においては、「飛鳥III」を上回り我が国最大のクルーズ船です。

§4 クルーズへの誘い

4-1 「飛鳥クルーズ」の軌跡（マリタイムシアター上映）

映像提供：郵船クルーズ(株)

1. 「飛鳥」徹底紹介（17分7秒）



2. Welcome to ASUKA II（11分42秒）



4-2 クルーズ情報コーナー

船社等提供の最新クルーズパンフレットを配布

謝 辞

本企画展を開催するあたり、郵船クルーズ株式会社から特段のご協力をいただいたほか、「AMADEA」に関してマーキュリートラベル株式会社、独フェニックス・ライゼン社からも貴重な資料をご提供いただきました。

また「飛鳥」の船籍港である横浜市港湾局、お名前は省略いたしますが、個人で所蔵される貴重な資料の数々を出展いただくこともできました。

ご協力いただいたすべての皆様に深く感謝いたします。

2026年3月 神戸海洋博物館

2025 年度企画展展示記録

企画展 船旅への誘い

— 神戸港に刻まれた「飛鳥クルーズ」の軌跡—

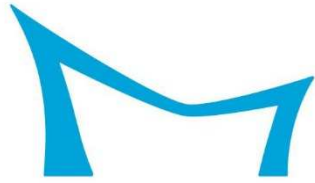
神戸市中央区波止場町 2-2 **神戸海洋博物館**

(指定管理者代表企業 (株)JTBコミュニケーションデザイン)

<https://kobe-maritime-museum.com/>

info@kobe-maritime.com

2026 年 4 月編集



神戸海洋博物館
KOBE MARITIME MUSEUM